



みぬまニュース

第61回 見沼塾

『七夕馬と昼うどん作り』 7月5日(土)

七夕は五節供の一つで、江戸時代に幕府が式日と定めたことから民衆に広まり、明治に廃止令が布告された後もその土地の風土や生業に根ざし、民間行事として行われてきました。また、七夕に伴い、「七夕馬」と呼ばれる草製の馬や牛を作る習俗は、東日本を中心として多く見られます。これは、来るお盆に祖霊を迎えるための乗り物として、また豊作祈願のために、日頃、農作業や荷役の重労働を負担してくれる馬や牛にその願いを託して作られるようになったものだと言われています。

今回、馬の材料となるマコモは下野田の水路から入手しました。また、当地におけるうどんは、一年を通じ「ハレ」の食べ物として喜んで食べ



七夕馬

られてきたものです。見学者たちは、そのような講師の説明を聞きながら実演を見学し、今では貴重な「農村文化」を味わいました。

(旧坂東家住宅見沼くらしっく館)

農園づくりから『サツマイモづくり体験』 つる返し・草取り 7月20日(日)

今年は、平年よりも1日早く梅雨明けし、「蔓返し・草取り」を行った7月20日も朝から晴天にも恵まれ、181名の方が集まりました。先月8日に苗植えを行ったサツマイモも雑草とともに順調に生育しておりました。つる返し作業は、地元農家の大熊さんの指導のもと、始めて蔓返し作業を行う人も上手にできました。一番大変だったのは、草取り作業でした。今年、雑草の生育が昨年と比べると大変に良く、サツマイモが見えないくらいに



サツマイモのつる返し

生い茂っておりました。草取り作業は、猛暑のなか皆さんの努力と子供達の昆虫採取のおかげで、ケガ等もなく1時間ほどで作業を終えることができました。秋のサツマイモの収穫が楽しみです。(斉藤)

第35回 自然観察ハイキング

『見沼の自然と歴史を訪ねて』 9月21日(日)

台風之余波で雨が断続的に降りましたが、集まった11名で自治医大南側に新設された合併記念見沼公園から中山神社までの見沼たんぼを歩きました。9時から12時過ぎまでの半日コースです。

湿性・乾性植物の秋の野草が花盛りや実を結んだところで、皆さん大喜びでした。皆さんが感動した植物などをエリヤごとに紹介しましょう。公園内では、大豆の原種のツルマメの実、ガマ科の全3種揃い踏み。天沼の休耕田では、優雅なタデ科の仲間。大宮南部浄化センターの自然庭園では、秋の七草ヤマハギとススキ、絶滅危惧種タコノアシ。上山口新田の田圃では、イボクサ・コナギ・タカサブロウ・コウホネなど可憐な花、アズキの原種のヤブヅルアズキ。円蔵院では、大宮一の巨木イチョウと^{おびただ}夥しい銀杏の実。中山神社では、境内林を彩るヒガンバナ。

(見沼たんぼくらぶ副会長 小野 達二)

見沼たんぼの四季 『案山子』

最近では、こども向けのイベントなどで作られるだけになってしまいましたが、かつては秋の田圃の風物詩でした。考えてみると不思議な言葉ですね。元々は鳥獣から作物を守るために、ぼろ・毛髪・獣肉・魚の頭など、悪臭のあるものを焼いて、串などに挟んだり縄に下げたりしたものを「嗅し」といいました。これと、神の依代の人形を立てて豊穰を祈る習慣が一緒になって、今日の形になったといわれています。そういえば、案山子はみんな、田圃のほうを向いていますね。今年も案山子に見守られて、稲が穂を垂れている風景が見られます。(高橋)



見沼たんぼの案山子

見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさん見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

大宮公園の8月

8月の朝早く大宮公園に行くと、ボート池の地畔の遊歩道は、朝の散歩を楽しむ人で賑わっている。遊歩道は樹木の枝葉に覆われ、池から吹き上げてくる冷たい風があつて実に気持ちが良い。ところどころにベンチがあり、そこに座って、朝刊を広げる人、尺八を楽しむ人・・・と、色々な姿がそこには有る。

散歩する人は大変な数で、ボート池を周回する人。遊歩道を半周して護国神社側に出、園内の外周路を経て自由広場、児童遊園地を経ながら再びボート池の遊歩道に至るコースを周回する人・・・等々、

人によってそれぞれのコースを決めているようだ。前者のコースで1周するとおよそ600m、後者のコースではその倍くらいの距離になるであろうか。グループで、ご夫婦で・・・と、色々な形で楽しんでいる。



6時半になると、児童遊園地の飛行塔からラジオ体操の放送が流れ、この塔を中心にして、一斉に「ラジオ体操」が始まる。児童遊園地内はさることながら、近くの園路という園路や自由広場の飛行塔側は、体操をする人たちで埋め尽くされる。注意して目を遣ると、遠く離れた護国神社の辺りやボート池のあちこちでも体操をしている人が目に入る。



私も皆さんと一緒に桜の木の下で体操をしたが、とても気持ちが良い。体をこうして動かすのは久しぶりで、節々がほぐれていくのを感じる。ラジオ体操を終えると、どの方も満足顔である。「今日も1日、暑さになんか負けるものか・・・」という言葉が聞こえてくるような清清しさがあつた、大宮公園には朝の勢いが漂う。

(平成20年8月8日 召田)

みぬまつうせんぼりこうもんかいへいじつえん 見沼通船堀閘門開閉実演

8月27日(水)国指定史跡・見沼通船堀の閘門開閉実演が行われました。実演は江戸から荷物を積んで来た舟が芝川から通船堀東縁を通って見沼代用水東縁に登るといふ想定で行われ、大勢の方々が見学に訪れました。



見沼の干拓という大事業を成し遂げた井沢弥惣兵衛為永は、見沼代用水の上流地域と江戸の間に舟運を行うために享保16年に東西2本の代用水路とその間を流れる芝川とを結ぶ見沼通船堀を開削しました。見沼通船堀東縁では芝川と代用水路との高低差3mを克服するために2つ閘を設けて水位差を調節する方法が取り入れられました。これがよくいわれる「パナマ運河」と同様の「閘門式運河」です。

実演では一の閘に「角落板」という高さ20cm程度の板を次々に積み上げることで約2m程水位が上げられました。舟は当時の舟を2分の1程度の大きさで復元したものが使われました。実演の間には、見沼通船舟歌保存会の方々により、「見沼通船舟歌」も披露されました。



水位は約1時間をかけてゆっくり上昇させたので水位が上がっていることは気づきにくいですが、上の写真を見比べるとかなり水位が上昇していることが分かります。

このように見沼たんぼに伝わるの独特な文化が、文化財と実演により現在も継承されています。(林)

見沼たんぼの植物

— 雑木林に復元したお花畑 —

雑木林の中央がパーッと明るくなりました。ヤマユリが咲いたのです。茎は1mを超え、大輪の花が五つ六つと咲いていて、自動車の通る路上からも、確認できます。春には、淡紫色のアカネスミレ、黄色のミツバツチグリ・キジムシロから始まり、薄紫色のジュウニヒトエ、黄色のキンランなどが続々と林床を彩ります。

4年前は真っ暗な森で、大木が道路に張り出し、ゴミの不法投棄が日常化し、なんとも汚い荒れた森でした。

2005年12月、さいたま市に借上げていただき、大谷自然緑地(4,425㎡)として、私達さいたま市みどり愛護会大和田・大谷支部がボランティアで保全活動を始めました。木漏れ日の差し込む風通しの良い雑木林に生まれ変わりました。

待っていたかのように、ヤマユリがすくすくと6・7本茎を伸ばしてきましたが、たちまち持ち去られました。細いものが1本だけ残り、夏に可憐な花を咲かせました。次の年、2本増えて3本とも花を咲かせました。今年の夏は林床のあっちこちに大輪

の花が咲き乱れました。周辺に住む人達から雑木林の良さが認知されたのです。もうどんな草木も持ち去られることが無くなりました。ご近所の皆さんに見守っていただいています。



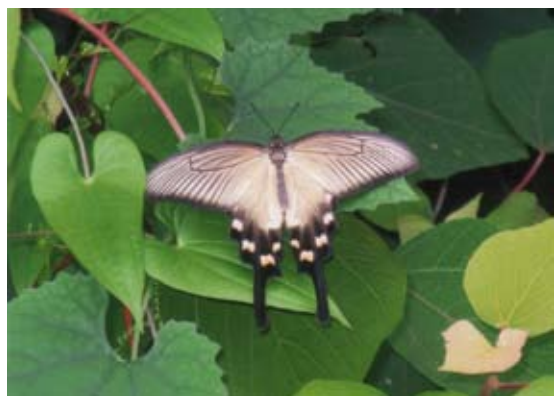
ヤマユリ

雑木林は、二次林と呼ばれ、薪・炭・肥料を得るために、手入れをされ続けた森です。その役目が終わった現在、それでも雑木林にこだわるのは、動植物に優しく、多様性に富んでいるからです。それが、この小さな雑木林で証明されつつあります。嬉しいことです。

秋が更けると、鳥の大好物のムクノキの黒い実が熟し、ムラサキシキブの紫の実が輝き、林床にはマンリョウの赤い実になります。(如月嘉継)

見沼たんぼの動物

近年、見沼田圃にジャコウアゲハ[アゲハチョウ科]が増えてきました。温暖化の影響でしょうか。森の縁や川端の草地が荒れて、幼虫の食草ウマノスズクサや成虫が好んで蜜を吸うヤブガラシが増えているからでしょうか。



ジャコウアゲハとウマノスズクサ

飛び方は低くゆるやかで目立ちます。クロアゲハのように高く飛ぶことはありません。体は尾上突起が長いこと、黒色毛のほか赤色毛班を持つことで、クロアゲハやカラスアゲハと容易に区別できます。黒装束の貴公子然とした優雅な姿は実に見応えがあ

ります。

アオスジアゲハ[アゲハチョウ科]は昔から見沼田圃に多く生息しています。それは、幼虫の食樹シロダモが雑木林や屋敷林に多いからです。幼虫の食樹クスノキも街路樹や社寺林に多いからです。高い木の上からヤブガラシの蜜を吸いに下りてくるのをよく見かけます。すばやく飛び去ります。青緑の炎がピカピカひらめくようで、実に美しい。なんともさわやかな気分になります。



アオスジアゲハ

いま、日本自然保護協会や環境省が生物多様性保全を訴えています。自然の中のさまざまな動植物を守っていくことが大事です。(小野達二)

見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



「刈入れ」（さいたま市見沼区）

加田屋新田の刈入れ風景（旧坂東家住宅くらしっく館主催）。このような「ハザ掛け」による天日乾燥は、現在は機械乾燥にほとんど代っている。07・10・6画。



「コスモスが彩る加田屋新田」（さいたま市見沼区）

07・10・17画



「秋深く」（宮代町）

見沼代用水から葛蒲町16間堰で本流と別れた中須用水路は、宮代町に入って荳原沼になる。紫山沼等とともに、為永時代に整備された干拓地のひとつ。一帯は現在東武動物公園となっているが、今でも灌漑用水として見沼代用水土地改良区が管理しておる大事な水源。画面の建物は伝統のある荳原小学校の校舎。07・12・9画。



「木漏れ日の中の十五尊」（さいたま市見沼区）

県道さいたま・岩槻線の東新井交差点から北へ約1kmの所に鎮座。1590年（天正18年）岩槻城落城の際、秘仏が敵に渡るのを恐れ、井上・堀江両氏によりこの地に移されたという。07・10・5画。



新釈見沼民話 見沼の竜の語り草

宮田正治

見沼弁財天宗像神社（前編）

大宮の片柳地区に、『新右衛門新田』という所があるのを知っておるかな？小さな村じゃが、その名のおりでな。大宮宿の本陣の当主、内倉新右衛門という男が開いたじゃった。ほら、今から三百年ほど前、幕府の役人、井沢弥惣兵衛という老奉行に、わしが見沼を譲り渡したころのことじゃ。

ここに『見沼弁財天宗像神社』という、長い名前の神社がある。ここはその創建にまつわる伝説が語り伝えられているのじゃが、その話に、わしのことが「見沼の龍神様」として引き合いに出されているのじゃ。それが皮肉にも、悪竜とされている。ま、人間が勝手に語り伝えていることで、放っておいてはいるのじゃが、少々気分がよくない。そこできょうは、この話を正確に語っておこうと思うのじゃ。

話のあらすじはこうじゃ。

大宮宿本陣の内倉新右衛門の娘に、お宮という美しい娘がおった。お宮は、ある実直な若者と恋仲であったが、風邪をこじらせて重体となった。死期をさとしたお宮は、若者を枕辺に呼んでこう告げた。

「わたしは見沼の竜神様に見初められ、そちらに嫁がなければならなくなったのです。この世では、あと三日と持たない命でございます。わたしのことは不運と思って、どうかあきらめてください」と。

お宮は三日目に亡くなった。悲しんだ若者は、見沼のほとりに来てこう訴えた。

「龍神様、あんまりです。わたしからお宮を奪うなんて……」

わしはその頃、見沼を留守にしていた。そこにいたならば、『ばかな！わしがそんなことをするものか』と叱りつけ、それから何らかの方法を講じたことだろう。だが、わしは、その場にはいなかった！

若者は髪を剃り落とし、僧衣を身にまとい、行脚のたびに出た。各地の寺社をめぐってお宮の冥福を祈った。

そのころ見沼では、幕府の手による干拓の計画が進められていた。お宮の父、内倉新右衛門は、この干拓工事に全面的に協力して、数町歩の新田を手に入れた。これが、今に残る新右衛門新田である。

若者は故郷に帰ると、新右衛門に願って新田の一部を譲り受けた。ここにあばらやを建て、中に引きこもって一心に弁天像を刻んだ。それは生前のお宮の姿の生き写しのような出来だったという。

やがて、若者は、お布施をもとに小さな祠を建てた。そして弁天像を祀り、お宮の霊を慰めながら一生を終わったという。

これが今に残る、通称『お宮弁天』の伝説じゃ。

わしは、見沼を旅立つ前、お宮が若者と恋仲であることは知っていた。しかし、お宮が亡くなったこと、若者が悲しみの旅に出たことは、長いこと知らなかった。ましてや、わしに向かって恨みを述べたなどということは、不覚にもつゆ知らぬことであつたのじゃ。

何年たつてからのことであろうか？ 広大な田んぼに変わった見沼や、はるばる利根川から引いてくる見沼代用水は、人間の暮らしに溶け込み、生き物たちもそれぞれに居場所を確立していた。そのような静かな時の流れの中で、わしはお宮と若者の悲話を耳にしたのじゃった。

捨ててはおけぬ重大事件であり、わしは、真相を確かめるべく、新右衛門新田の草地に降りてみた。あたかも稔りの秋のこと、そこは一面の黄金の稲の波であった。とはいえ、この新田村は、広さ六町歩、戸数六軒ほどの小さな小さな村じゃったが……。

わしは、旅人に変装して、たまたまそばを通りかかった百姓に、弁天社と若者のことを聞いてみた。

「ああ、村はずれの崖下の、お宮弁天のことだね。あそこの庵主は年はわけえが、よくできた人でな。よく働き、よく拝み、よく人の世話をするんで評判なんだが、今ならいるかな？ 行ってみなせえ。何でも話してくれるだんべ。また、泊めてもくれるべ」

その百姓は、心から信頼しきっているようじゃつた。

わしはすぐに崖の下の林に向かい、弁天社の入り口に立った。細い参道はきれいに掃き清められていた。それだけで、先程の百姓のことばを裏づけているように見えた。

奥の方に小さな祠が建っていた。中には白木の弁天像が置かれていたが、その容貌は、一、二度見たことのあるお宮によく似ていた。

その小さな弁天社のわきに、むしろで囲った小屋があった。覗き込むようにして声をかけると、僧形の若者が出てきた。求道の修行者に徹しているような澄んだ眼をしていた。

中に入って話を聞いた。わしに関わる部分を、とくに詳しく聞いたんじゃ。（後編に続く。見沼文化の会発行「竜のひげ」第3号から転載）

見沼たんぼの仲間たち No. 11

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

見沼たんぼの環境資産を創造する会

「新都心の東エリア」の環境の再生・創造を目指して

「新都心東エリア」とは

「さいたま新都心駅」から新都心の中央通りにそって東に向い、10分ほど歩くと、「見沼の西縁用水路」に出会います。ここから先が見沼たんぼの「新都心東エリア」です。この地域は、見沼たんぼの中では、最も開発圧力が高く、「高速道路の橋脚」や「残土山」、「耕作放棄地」、そして「資材置き場」などが広がっている「見沼たんぼとしては、誠に残念な風景」が見えます。



残念な風景 新都心東エリアの残土山

見沼たんぼの「メインゲート地域」に

しかしながら、私たちは、この地域を新都心からのアクセス性を活かした「見沼たんぼのメインゲート地域」にしたいと願い、昨年4月から活動を開始しました。メンバーは、この地域周辺に住んで、見沼たんぼの保全活動を展開している方々や、以前から見沼たんぼの保全活動をやっている人たちで、志を一つに大同団結して活動を始めました。

「セントラルパーク計画」の実現を目指す

この地域は、農的環境としては、かなり後退した地域を含んでいますが、さいたま市が69ヘクタール余の「セントラルパーク基本計画」（平成16年

3月）を策定している地域でもあります。また、新都心東エリア地域には、新都心の都市景観とすばらしい対比性のある田園景観をもった地域も広がっています。



新都心東エリアの爽りの風景

まずは「見沼代用水路の水辺の再生と遊歩道化」を

この地域の環境の改善と風致の向上を目指すため、まずは、見沼代用水路や芝川の水辺空間の再生・創造と遊歩道としての活用を目指して活動を展開しています。このため、昨年度は、8回の市民公開講座、6回の学習会、7回の現地調査活動や清掃活動、3回の先進地視察などを行い、昨年末から本年2月にかけて、知事や県議会議員及び市議会議員などへの要望活動を展開しています。

今後とも見沼たんぼで活躍している諸団体の皆様と連携しながら、大規模緑地空間としての文化・環境資産の向上につとめたいと願っております。

見沼たんぼの環境資産を創造する会
代表 村上 明夫

浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示活動

① 企画展「浦和博物館の35年」

期間：10月3日(金)～12月7日(日)
内容：1972年(昭和47年)6月1日に浦和博物館は、現在地に開館しました。今年で36年目になりましたので、昨年までの35年間の当館の活動について紹介します。

2 三室地区定例探鳥会

日時：10月19日、11月16日、12月21日(毎月第3日曜日)
9時00分～12時00分
集合：9時に浦和博物館
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ
主催：日本野鳥の会埼玉県支部
参加費：高校生以上100円、小・中学生50円(未就学児は無料)

3 文化講座「100年前の浦和とその周辺」

日時：12月7日(日)14時～15時30分(開場13時)
会場：コルソ7階ホール(浦和駅西口前)
講師：青木義脩(元浦和市史編集委員・歴史研究者)
対象・定員：一般100人
入場料：無料
申込み・問合せ：11月5日(水)9時から電話または直接浦和博物館へ。
定員になり次第締め切り。

浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

① いろいろで聞く民話と昔話

日時：平成20年10月26日(日)13時30分～15時
会場：浦和くらしの博物館民家園 旧蓮見家住宅
内容：民家のいろいろで、見沼にまつわる民話・昔話の語りや、楽しい紙芝居を行います。

費用：無料

対象・定員：小学生以上30人(親子可)

申込み：10月4日(土)から民家園へ直接または電話

② 秋の自然観察会

日時：平成20年11月9日(日)10時から12時
会場：浦和くらしの博物館民家園
内容：民家園周辺見沼たんぼの植物観察会

講師：斉藤良夫氏

対象：一般30人

費用：無料

申込み：11月4日(火)より電話(878-5025)で民家園へ

③ 見沼塾「和風をつくる・あげる」

日時：12月7日(日)10時～12時

会場：浦和くらしの博物館民家園

内容：和風を作ってあげます。

費用：400円(材料費)

持物：①裁縫糸②速乾性接着剤③小刀・カッター④筆記具(マジック、色鉛筆等)④ハサミ

対象・定員：小学生以上20人(親子可)

申込み：11月8日(土)より電話(878-5025)で民家園へ

旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 主催事業

① 歴史講座(定員あり/無料)

イベント	月日	時間	定員
歴史散策「造り酒屋を訪ねる」	10月16日(木)	9時-12時半	20名
明治外交文書を読む	11月13日(木)	14時-15時半	8名
御伽草紙を読む	11月20日(木)	14時-15時半	8名
大正期歴史文献を読む	11月27日(木)	14時-15時半	8名

② 趣味・教養講座(定員あり/無料)

イベント	月日	時間	定員
声高らかに秋空へ(童謡合唱)	10月10日(金)	14時～16時	8名
加田屋のうどん打ち講座	10月15日(水)	10時～13時	8名

田舎そば打ち講座	10月22日(水)	10時～13時	8名
はじめての和紙絵	10月30日(木)	13時～16時	8名
篆刻基礎講座	11月12日(水)	14時～16時	8名
澄み渡る空・響く歌声(合唱)	11月14日(金)	14時～16時	8名
蔵書印作り講座	11月19日(水)	14時～16時	8名
土鈴作り	11月23日(日)	9時～12時	8名
落款作り中級講座	11月26日(水)	14時～16時	8名
筆ペンで写経	11月28日(金)	14時-15時半	8名
正月飾りのゴボウめ作り	12月13日(土)	10時～12時	10名
勾玉作り	12月17日(水)	13時～15時	8名
洗える紙草履作り	12月21日(日)	10時～12時	8名

③ 演奏会・詩の朗読・寄席・演芸・民話語り(定員なし/無料)

十三夜観月会 (ハーモニカコンサート)	10月11日(土)	17時30分～ 19時30分
笑い・舞い・踊り	10月12日(日)	14時～15時
詩&ギター懐かしき心の旅へ	10月13日(月)	14時～16時
秋深し隣は民話を聴く人ぞ	10月15日(水)	14時～15時
笑いの神降臨!「くらしっく寄席」	10月19日(日)	13時～15時
年忘れ歌声喫茶	12月12日(金)	14時～16時

④ 公開講座(定員なし/無料)

旧暦重陽の栗おこわ作り	10月7日(火)	10時～12時
年の瀬の餅つき	12月10日(水)	10時～13時
正月迎いの沢庵作り	12月14日(日)	10時～12時
煤払いと正月飾り	10月25日(木)	9時～12時

⑤ 親子教室(定員あり/無料)

ゴム動力飛行機作り	10月25日(土)	13時～15時	10組
葉っぱで作る年賀状	12月14日(日)	14時～15時	15組

2 企画展示

松本忠「鉄道のある風景」	10月7日(火)～10月19日(日)
緒方澄子「和紙絵の風景」	10月21日(火)～11月3日(祝)
茶碗と湯のみ	11月5日(水)～12月27日(土)

3 季節展示

「十三夜飾り」	10月8日(水)～10月11日(土)
「正月飾り」	12月25日(木)～1月7日(水)

農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

① 秋の盆栽展

期日：平成20年11月8日(土)・11月9日(日)10時～16時
会場：さいたま市園芸植物園花き集荷施設
対象：一般市民の方
内容：松柏、さつき盆栽の展示、園芸相談など

大宮公園事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605
開館時間：8時30分～17時
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

第2回遊書展	10月13日(月)～10月19日(日)
手作りバッグ、小物 展示即売	10月21日(火)～10月26日(日)
秋の山野草展示即売	10月24日(金)～10月26日(日)
レカンフラワー・押し花の展 (11/9即売)	10月27日(月)～11月9日(日)
押し花アート	10月27日(月)～11月9日(日)
秋の山野草展示即売	11月13日(木)～11月16日(日)
スクラップブック展示会	11月24日(月)～11月30日(日)
写真展(四季)	12月2日(火)～12月7日(日)

2. 秋のイベント

① 自然観察会

日時：11月9日(日)9時～12時

集合：大宮第二公園 会議室

対象：小学校(高学年)～中学生及び父兄 30名程度

申込み：事前予約あり 無料

内容：講師と共に公園内を散策し、解説を受けながら秋の植物や昆虫観察などを行う。

見沼たんぼくらのイベント案内

見沼たんぼ学習交流バスツアー

さんとめしんでん たふくじ たもんいん
『三富新田と多福寺・多聞院』

日 時：10月12日（日）8時
集合場所：大宮駅西口ソニックシティ西側向いの歩道
内 容：地元の田村博一理学博士のガイドで三芳町～
所沢市に広がる地割（屋敷林：畑・雑木林）
を歩きます。車内では見沼田圃と三富新田の
比較などについて学習します。
申 込 み：下記に電話、先着45名
参 加 費：無料
持 物：昼食・雨具・筆記具
問 合 せ：TEL(048)683-1764・小野

第64回見沼塾

『和風をつくる・あげる』

日 時：12月7日（日）10:00～12:00
場 所：浦和くらしの博物館民家園
内 容：竹骨の凧を作る講座
申 込 み：11月8日（土）より電話で受付
参 加 費：400円
そ の 他：浦和くらしの博物館民家園との共同実施です。
持ち物は、申し込みの際、問い合わせてくだ
さい。
問 合 せ：TEL(048)878-5025（民家園）

第10回見沼たんぼくらのウォークラリー

日 時：10月13日（月・祝）9時～13時（雨天決行）
集合場所：吉場公園集合・解散（武蔵野線東浦和駅下車）
内 容：見沼たんぼの南部（約8km）をクイズやゲー
ムを楽しみながら巡ります
申 込 み：10組（1組2～6人）募集（先着順）
10月7日（水）までに参加者全員の氏名を
明記し、Eメールで下記まで
参 加 費：無料
問 合 せ：見沼たんぼくらの事務局理事 森田
Eメール fusyjma7848@tcat.ne.jp
TEL(048)-864-7444

第65回見沼塾

「正月迎えの沢庵作り」

日 時：12月14日（日）10:00～12:00
場 所：旧坂東家住宅見沼くらしっく館
内 容：片柳の新年迎え「沢庵」作りの公開
申 込 み：当日、直接、くらしっく館へ
参 加 費：なし
そ の 他：浦和くらしの博物館民家園との共同実施です
問 合 せ：TEL(048)688-3330（くらしっく館）

事務局よりお知らせ

見沼たんぼくらは、平成19年11月に開館したさいたま市中央図書館に「見沼たんぼの図書コーナー」を創設するため、見沼たんぼに関する図書の寄贈をお願いしています。図書を寄贈して下さる方には手続きの資料をお送りしますので、下記事務局までご連絡下さい。

**「見沼たんぼくらの」をお友達に紹介してください！「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしま
しょう！事務局から入会案内をお送りします！**

（編集・発行）見沼たんぼくらの
〒337-0053
さいたま市見沼区大和田町1-2124-3 小野方
TEL・FAX：(048) 683-1764
URL：http://minumatanbo.web.fc2.com/

見沼たんぼくらの会長
野崎 初太郎